



## ナデシコ（撫子） 三村 千秋

— ある卒業生のお話 —

私のライフワークの一つに卒業生との再会があります。38年間、教職に携わっているとその後の生き方が気になる生徒がいるものです。

不思議なことに気になっていると出会いのチャンスがきます。

その一人にAさんがいます。Aさんは、私が体育の教師として一步を踏み出したばかりの頃、いつもグラウンドに一番にやってくる生徒でした。Aさんは、いつも来るなり私のそばで石ころを拾ってきては、動物やアニメ、空想の世界の風景など色々な絵を描いてくれました。それは卒業するまで続きました。

やがて美術大学を卒業して、画家になった噂を聞いていたある日、一枚の個展の案内が来ました。早速、Aさんの個展に出向きました。

Aさんはとても喜んでくれて「先生、私がいつも走ってグラウンドに行って絵を描いていたことを覚えていますか？」と尋ねました。私はあったかな？と思い出していると、続けてAさんは「先生はいつも、『うまいねー、すごいねー』と嬉しそうに言ってくれました。そして『将来は画家だねー』と褒めてくれましたよね。」というのです。そして、「私は運動がまるで苦手だったけど、体育の授業は好きでしたよ。」と続けてくれたことが心に残っていました。

さらにAさんは、「実は、誰にも言えなかったけど、私は幼い時から3と8、6と9など数字の区別ができず10以上もできず、苦しんでいました。でも、画家の仲間には結構そういう人がいましたよ。」私は無言で聞いていました。

あの頃は、限局性学習症（LD：学習障害）や、LDのディスレクシア（読み書き障害）、ディスカリキュリア（算数学習障害）の知識はなく、漠然と不得意ととらえていたと思います。教員であったにもかかわらず、苦しみに気付けずにいたことをとても申し訳ないという思いはその後の研究活動の原点になった再会でした。

年末のある日、Aさんから大きな作品展に入選したという報告と共に招待状が届きました。作品について語ってくれるAさんを眩しく見つめ、子どもの痛みに気付けるような活動を続けたいと感じました。

今年もナデシコをお読みくださり、誠にありがとうございました。来年も皆様に少しでも役立つ情報をお届けしたいと思っておりますので、宜しく願いいたします。

## 個別面談

皆様にご心配されている子育て相談や就学相談など、クォーレプレミオでは対応が難しかった部分を三村先生にお願いし、個別相談をしていただけることになりました。

三村先生は、数々の実績とご経験をお持ちの方で、今もなお、広島大学客員教授などご多忙な毎日を送られている中、クォーレプレミオの療育に賛同して下さり、ご協力していただける運びとなりました。

Zoomでのオンライン面談も可能です。

<https://airrsv.net/qole-hogosyamendanyoyaku/calendar>

↑こちらから予約が可能です。

詳細は教室にお尋ねください。



## お知らせ

Instagram・Facebookの更新が始まりました！

是非ご覧ください！！

クォーレプレミオのことをさらに詳しく、ブログ随時更新中！

クォーレプレミオ ブログ

検索

